

韓国の特種緑化事例視察

ワールドカップ公園

清溪川（チョンゲチョン）

京義線（キョンウィソン）森の道公園

公益財団法人都市緑化機構では、韓国人工地盤緑化協会と相互協力協定を結び、屋上等特種緑化空間技術の発展のためお互いに協力を行っています。その一環として特種緑化事例視察を実施しています。

公益財団法人都市緑化機構

特種緑化共同研究会

■ ワールドカップ公園

2004年の調査見学では、ワールドカップ公園の緑化を主に調査見学した。ここは2002年のワールドカップを記念して、かつてはごみ埋立地であったところを周辺の環境を保護するために、生態公園として造成・緑化した公園で市民の親しまれていた。総面積:約3,460,000㎡、公園は5つから構成



〈空の公園〉・生態系の安定化に寄与するように計画されている公園



模型写真



生態系に配慮した自然側溝



草屋根

■ 清溪川（チョンゲチョン）

工事中の清溪川（チョンゲチョン）を見学した。高架道路の老朽化に伴い、2003年7月から2005年9月にかけて復元工事を行い、2005年に清溪川が復活。全長約5.8 km。上流部は都会的な広場の水辺で、中流部は植生群落とともにデッキや飛石などがある自然と親しむような水辺、下流部は自然群落のある生態系復元を中心に考えられた水辺の構成となっている。



改修後の断面（＊ソウル市のパンフレットより）



改修前の道路（＊パンフレットより）



周辺環境（＊パンフレットより）



工事中（2004年）

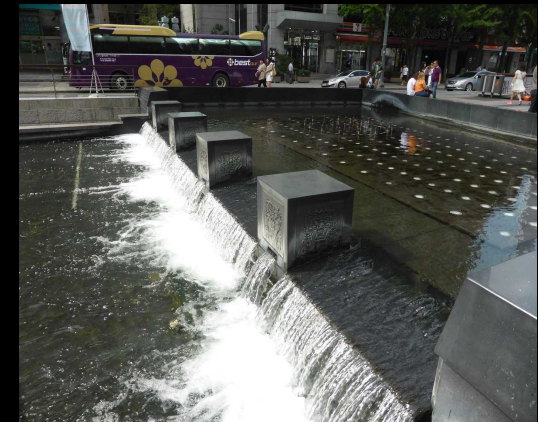


工事中（2004年）

■ 清溪川（チョンゲチョン）



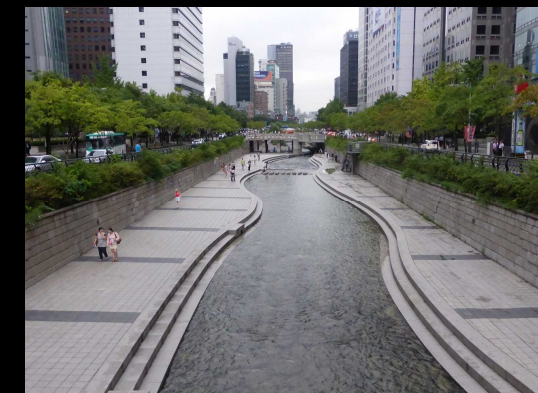
上流部（2014年）



滝口

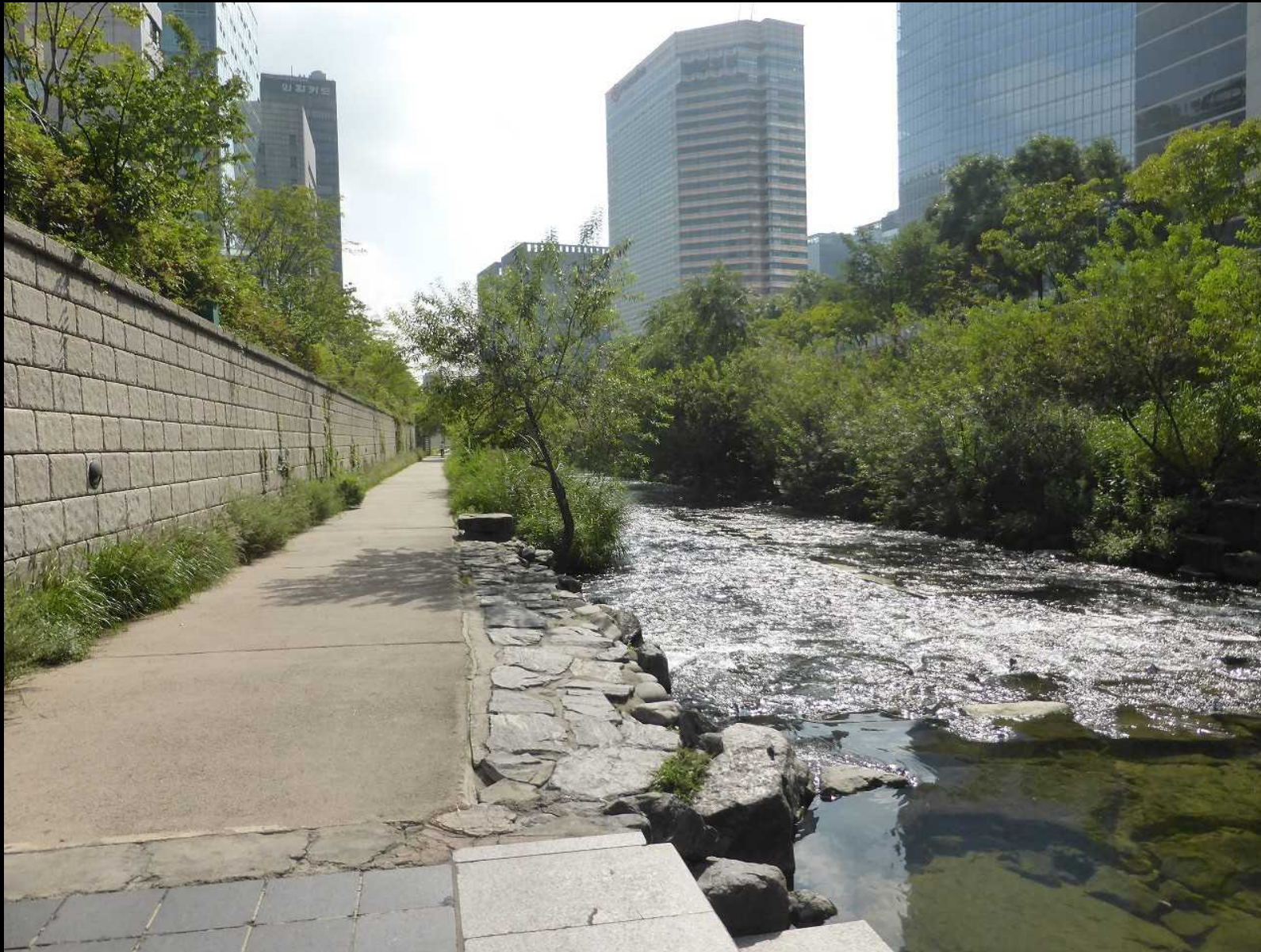


周辺の高層ビルの建設

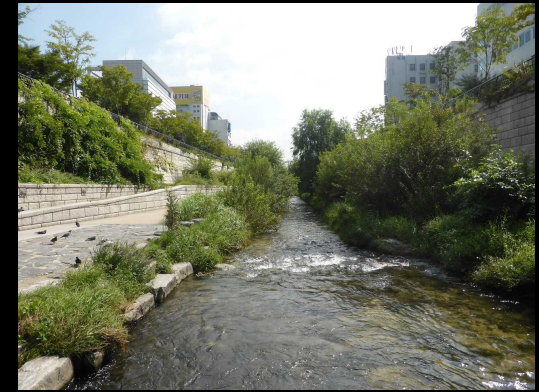


川と並木の整備

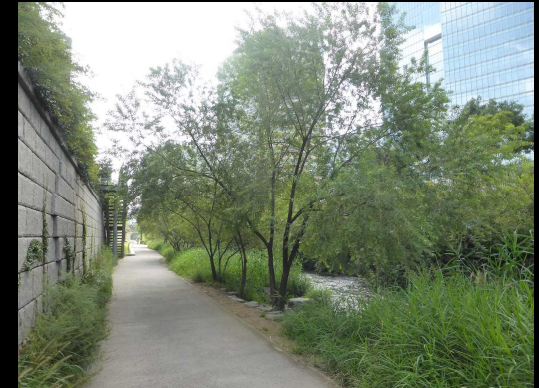
■ 清溪川 (チョンゲチョン)



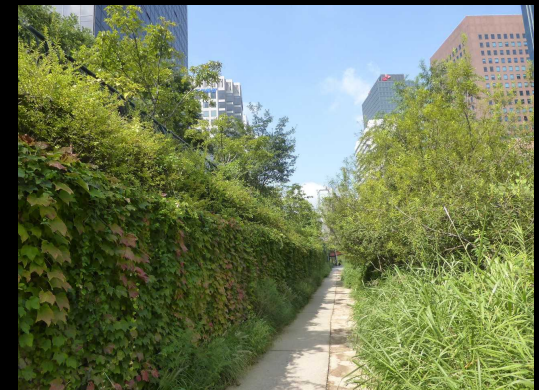
中流部と周辺の高層ビル（2014年）



小滝と水辺の緑化



水辺の緑化



護岸の緑化

■ 清溪川 (チョンゲチョン)

復元された清溪川は集中豪雨時にも雨水調整機能があるように設計されている。ソウル市は「開発から環境へ」「車輛から人々へ」「効率から衡平へ」を考えている。上流部は都会的な広場の水辺で、中流部は植生群落とともにデッキや飛石などがある自然と親しむような水辺、下流部は自然群落のある生態系復元を中心に考えられた水辺の構成となっている。清溪川の復元に伴い、潤いある環境となり、周辺の土地の資産価値が上がり、再開発が進んでいる。



下流部と周辺の高層ビル（２０１４年）



下流部（２００８年）



下流部（２００８年）

■ 京義線（キョンウィソン）森の道公園

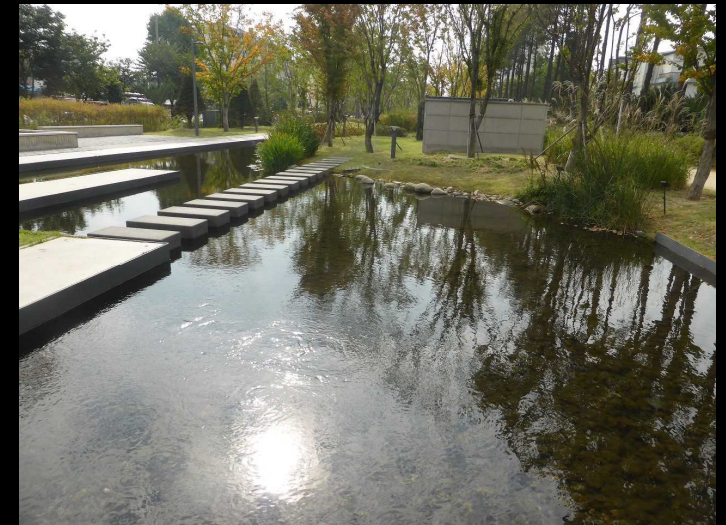
2005年に一部区間が地下走行になったソウル首都圏電鉄京義線の路線跡地の6.3 km（公園4.3 km）を改修し、2016年の6月の工事が全面完了。幅員は10～60m。面積は102,000㎡。枕木やレール、砕石などを利用したデザインを取り入れて鉄道の面影を残しながら、公園として整備。地下鉄に溢れ出てくる地下水を水景施設に有効利用するなど環境に配慮されている。



公園を中心に新しいネットワークやコミュニティの形成、外国人の利用が増加している。また、資産価値が上がり、公園周辺の店舗やビルが建て替えられるなどの変化がみられる。市民協議会など市民参加を通じて公園を守っていかようとしている。



生物多様性を考慮した流れ（2016年）



地下水の水を利用した水景施設